

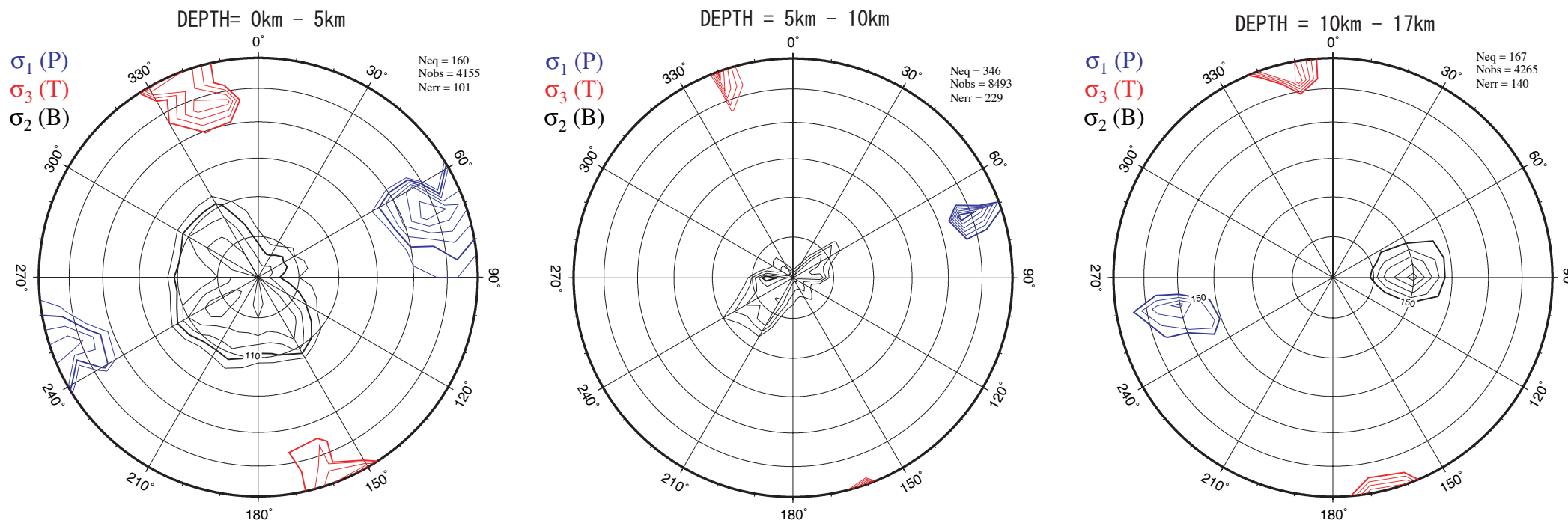
# 福岡県西方沖地震余震域における深さ毎の応力テンソル

2005年6月8日地震調査委員会資料  
九州大学地震火山観測研究センター  
東京大学地震研究所  
鹿児島大学理学部  
京都大学防災研究所  
東北大学大学院理学研究科  
北海道大学大学院理学研究科

福岡県西方沖地震余震域における、深さ毎の応力テンソルを下に示す。

左から、深さ0km~5km、5km~10km、10km~17km（余震の深さ下限）の結果である。

青色が、最大主応力軸（P軸）、赤色が最小主応力軸（T軸）、黒色が中間主応力軸（B軸）を表す。



各深さとも張力軸（赤色）は方位角・傾斜角とも同じであり、いずれの深さもほぼ方位角160度で水平である。

圧縮軸（青色）の方位角はいずれの深さもほぼ同じ70度であるが、傾斜角は、0~5kmの深さでほぼ水平、5km~10kmの深さで約15度、10km以深の深さでは約30度と、深くなるにつれ15度ずつ立ってくるという、非常に興味深い結果が得られた。

一方、余震分布から推定される断層面は、深い部分までほぼ鉛直である。これらのことから、断層浅部はほぼ純粋な横ずれであるのに対し、断層深部では縦ずれ成分があると推定される。